



〈12〉



伊那市の美篤、富県両地区の天伯社に伝わる七夕祭り。

三峰川に洪水を起す疫病神を鎮めるために、毎年八月七日に行われる。

言い伝えによると、室町中期の一四二七（応永三十四）年、上流の高遠地区にいた天伯様が洪水で富県地区に流れ着き、その後の洪水で対岸の美篤地区に流れ着いたとされる。これを縁に両地区に天伯様を祭ったのが祭りの始まりとされ、一四七二（文明四）年から続いているという。

祭りは、美篤地区の天伯社で子どもたちが飾り竹を持って、鬼役を務める大人二人の周りを「さんよりこより（さあ、寄ってこいよの意味）」と唱えながら回る。三度回ったのち、飾り竹で鬼をめった打ちにして家族の健康などを願う。

その後、大人八人でご神体

のみこしをかついで三峰川を渡り、富県地区の天伯社との間を往復する。美篤地区の天伯社総代・白鳥厚志さん（68）は「毎年、ダムの水量を調節してもらってまで三峰川を渡っている」と言い、人々の祭りに懸ける思い入れの深さを感じた。（札木良）

さんよりこより (伊那市美篤、富県)



飾り竹で子どもたちにめった打ちにされる鬼たち。伊那市美篤で

健康を願う竹で鬼退治

平成25年8月8日掲載
中日新聞／朝刊／18面（南信）